

SDGs 若葉台フロントとは

1 SDGs 若葉台フロントの役割・機能

地域だけでは対応できないまちづくりのテーマについて 新たな企業が参画するパートナーシップのハブを担い、ヨコハマ SDGs デザインセンターや横浜若葉台みらいづくりプラン推進会議等と連携をしながら 地域と企業、行政等が協働するまちづくりの総合調整を行います。



<事例>

オンデマンドバス実証実験	若葉台まちづくりセンターが事業主体となり、ヨコハマ SDGs デザインセンターと連携し、MONET Technologies(株)の配車プラットフォームを活用し有料サービス化を検討。
IoT 宅配システム実証実験	I・TOP 横浜の一環で市と京セラが協働し、宅配ボックスをIoT化することで非対面での受け取りを可能にする実証実験。宅配ボックスメーカーの白山機工や佐川急便等が参画。
モビリティと連携したまちづくり	横浜国立大学が参画し平成 30 年 11 月に協定締結。コミュニティバスわかば号（若葉台まちづくりセンターが無料運行）や路線バスの位置が分かるアプリの配信開始。
映画「ドンテンタウン」のロケ地誘致	横浜フィルムコミッションと連携し撮影協力。作品は音楽×映画の祭典「ミュージックラボ 2019」準グランプリを受賞。監督：井上康平氏、音楽提供：菅原慎一氏（シャムキャッツ）



オンデマンドバス実証実験を計 4 回実施



映画のワンシーン

横浜市内最大規模の旭区若葉台団地は、高層棟を中心とした計画的な整備により緑豊かな環境が形成され、季節ごとのイベントや祭り等の地域活動も盛んで元気な高齢者が多いことが特徴です。一方、人口減少と超高齢化が進行中であり、様々な問題が生じる恐れがあります。これらに対応するため平成 29 年に 住民が中心となって「横浜若葉台みらいづくりプラン」を策定し推進するための連携体制を構築しています。このように、この地域にはまちづくりの課題や方向性、取組体制が明確化している強みがあります。

今後予測される空き家の発生を住み替えのきっかけにできれば、環境・経済・社会課題の統合的に解決するチャンスといえます。平成 30 年から試行的に進めてきた SDGs 若葉台フロントによる取組を強化し、地域の基本目標である「世代をつなぎ 未来をひらく 持続循環型まちづくり」の推進を図ります。

2 フロントの事業戦略（アクションプラン）2020

< 若葉台の強み（地域のシーズ） >

- 豊かな自然環境が保全。多様な公共施設が配置。人口が集約されコンパクトなまちが形成（約 157 人/ha）
- 近隣 5 駅へのバスの運行本数が充実。団地内移動手段としてコミュニティバスが運行
- 専有部（生活支援）サービスのニーズがある。超高齢化によるターゲットの絞り込みや地元のニーズを踏まえた事業を想定しやすい
- 住棟のプランが多様でありリノベーション等による多様な住まい方の提案の可能性あり
- 住宅や施設の活用、また先端設備の実験的導入の可能性あり
- 自治会中心に地域団体が組織化され合意形成が図りやすい
- 開発主体である県公社とまちを統括管理する若葉台まちづくりセンター、旭区の連携体制がある

< 若葉台の弱み（ビジネスチャンス） >

- 都市計画により、土地利用が「住宅団地」として規制
- 駅からの交通アクセスが悪いイメージ
- 高齢化率が約 5 割と、今後、要介護高齢者の急増の懸念
- 人口減少と空き家の増加によるまちの荒廃化、地域の資産価値低下の懸念
- 住宅や施設、その設備の老朽化の進行
- 商店街のテナントの撤退等により、商店街離れ進行の懸念。人口減少による売上減少、経営者の高齢化等による空き店舗増加の懸念

< 5つのテーマ >

商店街の活性化

子育て世帯の
流入促進

ヒト・モノ・
サービスの移動

多世代の
見守り

魅力の発信

全てに、
環境の
視点を

< 3つのプロジェクト >

地域移動プロジェクト

生活支援プロジェクト

住宅流通プロジェクト

相互
連携

ヨコハマ
SDGs デザ
インセンタ
ーと連携
必要なシー
ズを持つ企
業・大学等
の参画

戦略の柱 1
事業の
強化

●プロジェクトに更なる企業・団体が参加

- ・プロジェクトに興味を持った企業等からのアプローチにフロントが対応
- ・ヨコハマ SDGs デザインセンターや横浜市共創フロント、旭区 HP を活用し、新たな企業や団体を募集

戦略の柱 2
事業の
持続化

●住民、地元企業、事業参加主体のメリットの明確化

- ・住民及び地元企業と地域ニーズの整合を確認（自治会共催のワークショップの開催）
- ・事業者のメリットを明確化（座談会の開催）

戦略の柱 3
フロントの
機能強化

●コンシェルジュの配置・拠点の設置、情報発信などを検討

- ・外部団体に対してコンシェルジュが対応。ワークスペースやフィールドの提供
- ・情報発信の充実を検討

◎目標 SDGs の視点を取り入れ、多様な人や企業に選ばれ続ける未来志向のまちへ

- ① 地域が、様々なパートナーシップを受け入れるオープンなマインドと変革へのチャレンジ精神を持続。
- ② 企業等にとって、先端技術や資本投入による新たなビジネスモデルにチャレンジできる環境を維持。